

福島の文化財

史 跡

いし も な 石母田供養石塔



鎌倉時代の名僧一山一寧の書になる
この供養塔は高さ一・八メートルの安
山岩の方形の板碑である。塔の中央上
部に梵字とその下に漢文が刻まれてい
る。文の末尾に「知瑄」という者が親の
菩提をとむらうためにこの文を草し一
山一寧が書いたとあり徳治三年の銘
がある。知瑄はおそらく地元出身の僧
と考えられ一山一寧に書を依頼したの
だろう。

一山（一寧と号す）は一二四七年中
国は宋の台州に生れた。幼いころより

学徳衆にすぐれ、各地を遍歴し高僧の
教えを受けた。その後宋から元にかわ
ると世祖フビライは二度にわたる日本
征服を企てた。（元寇）次の成宗もまた
日本侵略の志をすてず一山を勧降使と
して我が國に派遣した。大宰府につい
た一山は捕えられたがその高い学識に
よつて許され鎌倉の建長寺、円覚寺、淨
智寺などに住した。またのち後宇多上
皇の崇敬を受け京都南禅寺に移つた。
彼の学徳を慕つて虎閻師鍊、夢窓疎
石なども彼の教えをうけた。後世、一

山を五山文学の祖と称する。

一山の書といわれる板碑は東北では
松島とこの石母田にあるだけである。
文の内容は塔婆建立の功徳を述べたも
ので禅宗の中に密教的思想が加わつて
おり思想史的にもめずらしいものとい
われている。福島市瀬上町台嚴寺にあ
る古拓本により解説された。文字は典
雅で一山の人となりをあらわしている。

〔所在地〕

伊達郡国見町大字石母田字中ノ内
(見学は自由です)